

九条北小学校 校長室だより

NO.49 令和2年8月5日



今年度の「課題図書」を紹介します。夏休みの間に、機会があれば読んでみるのも良いと思います。

九条北小学校の図書館にもあります。

【低学年の部】



にしゃんちの犬・ごんすけが死にそうです。ごんすけがいなくなるなんて。いがらしくんは、どうやって死ぬのか見てみたい気もしました——。

【みどころ】

いがらしくんは、おっちょこちょいの元気な一年生です。にしゃんは、いがらしくんとは正反対の性格でした。よわっちいす。いがらしくんとにしゃんは、それぞれのやり方でごんすけの死と向き合います。



ぼくがいちばん好きなのは「おすもうさん」ではなく「よびだしさん」！

たんじょうびに行った大相撲で、ぼくは、よびだしさんに朝稽古にさそわれて…。

【みどころ】

「に～し～」「ひが～し～」と、お相撲さんの名前を呼び上げたり、土俵を作ったり…大相撲の縁の下力持ち、「呼出し」。そんな「よびだしさん」が大好きで、大相撲の世界にとびこんだ少年が、夢を叶える物語です。



夜、みんなが帰ったきょうしつでタヌキたちが勉強をしています。けれど問題がおこってしまい…。タヌキと人々との心あたたまるお話。

【みどころ】

子どもたちが帰った教室で楽しそうに勉強をしているタヌキたち。九九を覚えたり、歌を歌ったり。しかし、しばらくすると、町には兵隊があふれ……。タヌキの教室はいったいどうなってしまったのでしょうか。



列にならぶ5分とジェットコースターに乗っている5分。どうしてこんなに、ちがうんだろう！ 長いのは、どんなとき？ 短いのは、どんなとき？

【みどころ】

ならんでいる5分は長いけど、ジェットコースターの5分はあっという間！ おなじ5分でも、どうしてこんなに、ちがうんだろう。長いのは、どんなとき？ 短いのは、どんなとき？ 感じる時間のちがいが楽しい絵本。

【中学年の部】



みんなも、うまくいかないこと、どうしても一歩をふみ出せないことがあると思います。そんなとき、青いあいつの存在がいてくれたら…。

【みどころ】

「よおっ！」と、とつぜんぼくの前にあらわれた全身青いヘンなやつ。転校した学校で友だちがなかなかできないぼくと、今日一日いっしょにすごすだって!? 「青いあいつ」にふりまわされる「ぼく」の一日が始まった。



身のまわりのことができない王さまが、町でくらすことになって…? のんびりした王さまと、王さま思いのかしこいねこの、ゆかいで楽しい物語。

【みどころ】

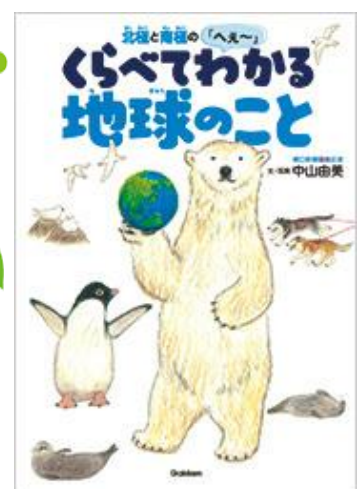
物語の舞台は、英国です。本の中には、英国らしいものがたくさん出てきます。たとえば、王さまとねこがのっている二かいだての赤いバス。巻末には、英国で紅茶と一緒によく食べるクッキーの作りかたものっています!



これからも、きれいな村でくらしていけますように——20年前のアフリカで、ポリぶくろのリサイクルをはじめた女性の伝記絵本です。

【みどころ】

いまに、きっと小さなゴミの山もなくなって、わたしの村はむかしのようにきれいになる——20年前、ゴミだらけだったアフリカで、なかまたちといっしょにポリぶくろのリサイクルをはじめた女性の伝記絵本です。



北極と南極、どちらが寒い? どんな動物がいるの? にているように見えるけど、くらべてみると、ちがうところがいっぱい、へえ〜って言いたくなるよ。

【みどころ】

北極の代表ホッキョクグマちゃんと、南極の代表アデリーペンギンちゃんが、著者の中山記者といっしょに極地のひみつを教えます。北極・南極のすばらしさにふれながら、地球の今と未来を考えるきっかけにしよう。

【高学年の部】



広島に落とされた一発の原子爆弾で「全滅」したある家族の写真絵本。父親が撮った日常写真から、奪われた尊いいのち、戦争について考える。

【みどころ】

愛情あふれる家族の日常写真で構成された本書は、原爆のむごさや戦争の残酷さだけではなく、何気ない日常こそが大事であり、平和を作っていくのは私たち自身だということに気づくきっかけを与えてくれる一冊です。



目の見えないルーチョが、山登り、人との関わりを通して、大人への一步を踏み出す成長物語！2018 年ストレーガ・チルドレン賞受賞作。

【みどころ】

中学を卒業したばかりのルーチョは5歳の時に失明した。誰の力も借りずに生きていこうとするが、山登り、人との関わりを通して、大人への一步を踏み出す成長物語！2018 年ストレーガ・チルドレン賞受賞の話題作。



沖縄で生まれた少女・珊瑚（さんご）と、東京から来た転校生・月（るな）。珊瑚の日記から沖縄の「今」を生きる少女たちの友情、将来の夢が浮かびあがります。

【みどころ】

勉強が苦手な少女・珊瑚（さんご）は日記をつけることにしました。転校してきた月（るな）と仲良くなりたい、エイサーを踊（おど）る男の子ってかっこいい……。日記から、沖縄の少女たちがまさに今感じていることがリアルに浮かびあがります。



体の不自由な人が乗れる自転車作りは困難の連続。その自転車を必要とする人がいる限り、たとえ自分が犠牲になってもただ信じる道を進むだけ！

【みどころ】

堀田健一さんが作るのは、体の不自由な人に合わせた世界にひとつの自転車。苦しい生活に、何度もくじけそうになりながらも立ち上がる姿に勇気づけられます。「人は何のために生きるのか」が心にしみる感動の実話です。